

第31回	設計のホンネと積算のホンネ		平成21年 10月 6日 (火)	
	進行役	渡邊 國雄(株伊藤建築設計事務所)	特別講師	

質問に対する講師の回答及び補足説明

番号	質問事項	回答及び補足事項
1	実施設計段階で、精算積算をされているのですか。	実施設計段階では概算予算作成時との差異を修正(精算)します。差異が大きい場合は設計者に強く申入れします。
2	設計図書(特記仕様・設計図・標準仕様)には、優先順位がありますが、設計図(仕上・一般・詳細)のなかではありません。設計者としては、どれに重きをおかれて作図されているものなのでしょうか。	配置図、仕上表、平面図、立面図、断面図の、いわゆる一般図に重きをおきます。
3	顧客の要求が多く変更業務が多いと思いますが、設計者として、これだけはゆずれない。ゆずれない点がありましたら、経験談をお聞かせください。	設計事務所(アトリエ事務所、組織事務所)により異なると思いますが、基本的には外的要因(風雨・日照・地震・雷・火災・犯罪など)から人を守るのが建築物ですから、それらに関するものです。
4	設計者としても試算～概算予算を組まれるわけですが、手法をご教示ください。(積算者の立場として、協力できることは何かありますでしょうか)	参考概算予算書参照
5	顧客からは、正確な予算は提示されるものでしょうか。又設計される際には、予備費的要素はどの程度考慮されて設計されていますでしょうか。ご教示ください。	詳細な予算は提示されない場合が多く最初は坪単価、超概算から話を始めて、基本設計段階にて概算予算書を提示して調整していきます。多くの場合は、建設工事に関する予備費は考慮しません。通常別途のものでも参考までに予算額を提示します。
6	図面チェックは積算に求めていますか。	求めていません。過去にはそのような考えがありました。設計者が積算をするのか否かにもよります。
7	見積りの掛率を調整して予算に合わせる事をどのように考えていますか。	必要な事ではありますが、取引価格は読み切れないので推測に依らざるを得ません。むやみに低減すると破綻することもあります。
8	どのように建物の予算に合わせて設計するのですか。	まずは概算予算を立案する場合と、同類前例を見極めて設計を始める場合とあります。その後は、概算予算の内容と設計内容との整合をとります。